Tohoku University Hospital TUH

嚥下治療センター便り

Center for Dysphagia of TOHOKU University Hospital

No.2
2022年
6月発行

嚥下スクリーニング検査について

その食事、提供しても大丈夫！？

今回はそんな時に手軽に実施できるスクリーニング検査についてご紹介します！

必ずしも以下すべてを実施する必要はありません。
まずは取り組みやすいものから実施してみましょう！

◆ 反復唾液嚥下テスト（RSST）

被験者に30秒間になるべく早く空嚥下するように指示し、30秒間の嚥下回数を計測します。
30秒間に空嚥下2回以下を嚥下障害の疑いありと判定します。

◆ 質問用紙　EAT-10

下記の10項目の質問についての自覚症状を、0~4点で答えてもらいます。合計点が3点以上で嚥下障害の疑いありと判定します。
（0：問題なし、1：めったに感じない、2：時々感じる、3：頻繁に感じる、4：常に感じる）

① 飲み込みの問題が原因で、体重が減少した
② 飲み込みの問題が外食に行くための障害になっている
③ 液体を飲み込む時に、余分な努力が必要だ
④ 固形物を飲み込む時に、余分な努力が必要だ
⑤ 錠剤を飲み込む時に、余分な努力が必要だ
⑥ 飲み込むことが苦痛だ
⑦ 食べる喜びが飲み込みによって影響を受けている
⑧ 飲み込む時に食べ物がのどにひっかかる
⑨ 食べるときに咳が出る
⑩ 飲み込むことはストレスが多い

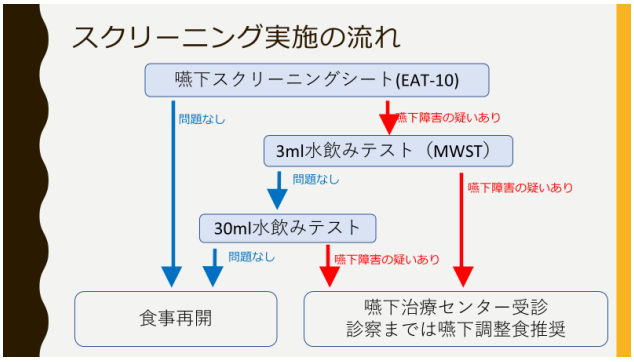
◆ 3ml水飲みテスト（MWST）

被験者の口腔底に3mlの水を注ぎ、嚥下を指示します。嚥下後に反復嚥下を2回行わせて嚥下の状態を観察します。
下記の評価基準で3点以下の場合、嚥下障害の疑いありと判定します。

1：嚥下なし、むせる and/or 呼吸切迫
2：嚥下あり、呼吸切迫（不顕性誤嚥の疑い）
3：嚥下あり、呼吸良好、むせる and/or 湿性嗄声
4：嚥下あり、呼吸良好、むせない
5：4に加え、反復嚥下が30秒間に2回可能

入院時嚥下スクリーニングについて

一部病棟では入院中の誤嚥・窒息事故の予防のため右図の入院時嚥下スクリーニングを実施いただいております。当センターでは、３つの検査からなるスクリーニングフローチャートの活用を強く推奨しています！！
実施内容の確認、記録は 定期記載ツール＞共通＞摂食嚥下センター＞嚥下スクリーニングシートから可能です。



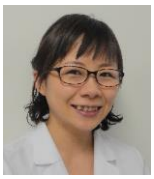
スクリーニングの解説動画あります!!

一般病棟向け

ICU向け

検査の結果、嚥下障害の疑いがあったら！？

嚥下治療センターにご相談ください。端末上から誰でも予約取得可能です！
耳鼻咽喉・頭頸部外科＞嚥下センター　または　顎口腔再建治療部＞嚥下治療センター歯科
予約取得困難な場合は外来にお電話ください。可能な限り対応いたします。



文責)耳鼻咽喉･頭頸部外科
医師　平野愛

編集：小宮山貴将 玉山咲紀 互野亮 佐藤由美子
発行：嚥下治療センター 広報部門　TEL：022-717-8581